

印象派の世界(仮)

印象派とジャポニスム、海を越える芸術

<巻頭特集>企画展「オルセー美術館所蔵 印象派 室内をめぐる物語」国立西洋美術館

取材候補◎袴田紘代様(国立西洋美術館主任研究員)

2025年10月より開催される企画展の魅力・見どころを紹介します。

「印象派の殿堂」とよばれるパリ・オルセー美術館所蔵の傑作約70点という規模で来日するのは10年ぶり。

また日本初展示となるエドガー・ドガ《家族の肖像(ベレッツィ家)》も注目。

印象派の作品について、室内画という新しい視点を提示する。

インタビュー◎上白石萌音様(展覧会アンバサダー)

俳優や歌手として活躍する上白石さん、読書家としても知られエッセイ本も刊行している。

さまざまなカルチャー、文化等にも関心を抱いている上白石さんが推薦する本展覧会の見どころとは？

<大特集>印象派の世界～「オルセー美術館所蔵 印象派 室内をめぐる物語」より

19世紀後半のフランスとは、どのような時代だったのだろう。展覧会に展示される作品と作家も紹介しながら、印象派という芸術運動が生まれた時代背景を探る。また、印象派ゆかりのスポットなども紹介
チュイルリー公園(モネ「チュイルリー庭園」マネ「チュイルリーの音楽会」など)

オランジュリー美術館

ルノワールが住んだ家「モンマルトル美術館」(シュザンヌ・ヴァラドンとモーリス・ユトリロのアトリエ再現)、

カフェ「ラ・ヌーヴェル・アテーヌ」(ドガ「アブサントを飲む人」の舞台)

ゴッホが弟テオが暮らしたアパート

ドガが描いたバレエの世界「オペラ座(オペラ・フガルニエ)

ゴッホ最後の家「ラヴァー亭」

モネが晩年を過ごした「モネの家と庭」など

<特集2>第一次ジャポニスムの潮流～江戸の浮世絵師、海を越える～

近年、第2次ジャポニスムと呼ぶべき時代が到来しているという。

かつて葛飾北斎や喜多川歌麿、歌川広重など浮世絵師の作品は、ヨーロッパのとりわけフランス美術界に大きな影響を与えた時代があった。

大胆な構図や輪郭線、色彩。西洋の芸術家にとって江戸の浮世絵師が生み出す世界が与えた衝撃とは？

<大コラム> 印象派の絵画が楽しめる日本の美術館

※特集内容は変更になる場合がございます。あらかじめご了承ください。

スペース	掲載料金	サイズ
表4	1,800,000 (税込1,980,000)	269×200 (天地mm×左右mm)
表2(1P)	1,500,000 (税込1,650,000)	285×210 (天地mm×左右mm)
表3	1,400,000 (税込1,540,000)	285×210 (天地mm×左右mm)
目次対向	1,300,000 (税込1,430,000)	285×210 (天地mm×左右mm)
4C1P	1,100,000 (税込1,210,000)	285×210 (天地mm×左右mm)

- 発売日 : 2025年11月26日(水)
- 発行形態 : 中綴じ／右開き
- 判型 : 120Pフルカラー、A4変型
- 定価 : 1280円(税込)
- 発行発売 : 株式会社三栄
- オーダー : 2025年10月31日(金)
- 校了 : 2025年11月10日(月)

全国書店及びコンビニで発売

【お問合せ】株式会社三栄 第二営業企画局 Mail : koukoku@san-ei-corp.co.jp

～この企画に関するより詳しい内容・不明点は各担当者にご連絡下さい。～

